

会議録

会議録	
■会議名	第2回 倉敷市社会福祉審議会障がい者基本計画及び障がい福祉計画策定専門分科会
■日時	令和5年10月12日(木) 15:30~17:00
■場所	倉敷市役所本庁舎5階 第502会議室
■出席者	後藤専門分科会長、生水副専門分科会長、山田委員、安原委員、薮田委員、上村委員、松井委員、平松委員、友國委員、古谷委員、井桁委員、安藤委員、藤原委員 藤原保健福祉局長、小野社会福祉部長、清水社会福祉部次長、山田障がい福祉課長、丸田障がい福祉課長補佐、舟戸主幹、小野主幹、藤原主任 村岡(株式会社公益創造センター)
■欠席者	眞神委員
■傍聴者	なし
■進行	1 開会 2 議事 (1) 計画素案について (2) アンケート調査結果について (3) ヒアリング調査について 3 閉会
■内容	○事務局資料説明 (1) 計画素案について ○事務局説明 ○質疑 後藤会長 ご意見ございましたら。まだ書かれていない部分は次回以降の会議で検討します。ご意見がないようでしたら次の議題に移ります。 (2) アンケート調査結果について ○事務局説明 ○質疑 後藤会長 ご質問、ご意見がありましたら。 藤原委員 前回、何かの会議に参加した時も家族や親族がダントツで多かった。不安とか感情的なところからきている。相談支援機関よりも地域で話をきいたら変わってくるのではないか。障がいのない人は関心あるけど、行政がやるべきと他人事。地域を巻き込むには自立支援協議会や団体が横つながりもっていけば安心したまちづくりができるのでは。行政ではなく地域が関わっていく必要性を感じた。 事務局 当然、行政がやるべきことはあるが、関係ないと思っている人をどう巻き込んでいくか考えないといけない。貴重なご意見ありがとうございました。

	<p>平松委員 地域の人の理解、自分の子どもが障がい児でなかつたら意識がなかつたと思う。行くところがなくて入所施設を作らないといけないと頑張った。10月15日のいきいきふれあいフェスティバルにぜひ来ていただきたい。一般の人にも来てもらわないといけない。いろいろ制限するのではなく。皆さんに知っていただくことが大事。特に知的、精神障がい者。</p> <p>事務局 フェスに関しては、障がい福祉課はパン食いを担当していた。今回はお菓子取りゲームをする。</p> <p>後藤会長 他にありますでしょうか。</p> <p>井桁委員 自由記述に読み応えがある。情報不足という記述が多い。一般の人もいきやすい広報。すぐできることもあると思う。福祉サービスの情報提供の充実を希望する。</p> <p>事務局 情報発信はまだまだと思う。障がいになったときにまず行く場所として(総合療育相談センター)ゆめぱるを作った。PRが足りなかつたという感じはある。</p> <p>井桁委員 病院のケースワーカーが独立した感じで、上手く回っていない。できないという声を拾い上げて改善していってもらいたい。</p> <p>後藤会長 (調査報告書の)8頁で「手帳は持っていない」という回答が多いのはなぜか。</p> <p>事務局 我々も疑問を持った。回答として、例えば身体障がいの手帳を持っている方が、別の障がい(知的・精神)の手帳について、持っていないと回答している。</p> <p>安藤委員 自由記述について、グレーゾーンの子どもに専門知識のある人を配置という意見、高齢化が進んで将来が不安など。細かく相談できるところがないのかと思った。もっと小さい単位で相談できる人を配置するのが良いと思う。</p>
	(3) ヒアリング調査について
	○事務局説明
	○質疑
	<p>後藤会長 ご意見、ご質問ございましたら。サービスの供給体制についてご意見が出ていた。</p> <p>薮田委員 部屋の使い方を要望している。ロビーだと個人情報が漏れる。相談の時は部屋を貸してほしいとか要望している。ご検討いただきたい。他の団体は事務所などはどのようにしているのか。</p> <p>事務局 連合会は施設を指定管理にして、社会福祉事業団の部屋を使ってもらっている。市も協力できるところは協力している。各団体は団体で用意している。</p> <p>井桁委員 事務所はない。相談会は福祉プラザなどの部屋を借りている。要望が多いので競争になる。借りるのは無料。補助金をいただいている。</p> <p>井桁委員 ヒアリングに出ていない団体もある。そういう人たちがいるということを考えて情報発信してほしい。オンライン相談は良いと思う。</p>

	松井委員 これからは ITC。そのあたりをしっかりとしていただければ。
	平松委員 知的障がいの入所施設が山の上にある。どこも人材不足。育成会の入所施設、4か所どこも人がいない。東京の育成会本部から職員の給与を上げてくれと厚労省に要望書を出している。お風呂も人がいないから入れられない。
	事務局 福祉人材の不足は顕著なこと。倉敷市は人材養成をする大学がある。仕事の魅力を発信する取組もしている。処遇改善は、国も手立てを打っている。市としては PR や魅力発信。
	平松委員 法人が払わないといけない。
	後藤委員 福祉サービス事業所の人材募集は職安でそれほど多くない。
	松井委員 人の取り合いになっている。介護施設でも足りていない。職業訓練などを紹介している。
	藤原委員 ひまわりの会。昔は毎日入浴できていたが、今は毎日できない。
	山田委員 アンケートで教員の意識が足りないとあったが、教員は頑張っている。できることはやっていきたい。昨年、障がい児が居住地以外の学校に行く交流をしている。支援学校にも籍があり、居住地の学校も受け入れる。倉敷支援学校で困ったこと。高等部は自力通学することとされている。路線バスを使う。通学練習をするが、できない子は保護者が送迎。送迎バスも定員がある。移送サービスが使えれば。
	後藤会長 移動支援は通学には使えないのか。
	事務局 使えません。
	山田委員 岡山市は使えるのでは。
	後藤会長 使えるところもあると聞いている。
(4) その他	
	今後の日程について、11月に 701 会議室にて開催

会議録の内容に相違ないことを確認し、ここに署名します。

倉敷市社会福祉審議会障がい者基本計画及び障がい福祉計画策定分科会

専門分科会長 後藤祐之

